

平成30年度自己評価表〔最終評価〕

鳥取県立鳥取東高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	さまざまな教育活動を通して、21世紀の鳥取そして日本を支える人材の育成に努める。	今年度の 重点目標	1 自分の将来をはっきりと思い描き、その目標に向かって努力する主体性を育成する 2 社会のどこかを支える人間、一隅を照らす人に育てる 3 他者を思いやる優しさ(親和)、困難に立ち向かう逞しさ(克己)、探究しようとする積極性(進取)を育成する
-------------------	--	--------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 2 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況 %は生徒・保護者アンケート結果	評価	改善方策
1 社会貢献に繋がる人間力の育成	①学習・部活動・学校行事の3 兎を全力で追いかけ、主体的に行動する生徒を育成する。	○素直で真面目な生徒が多いが、物事に積極的に取り組む姿勢に欠ける面がある。 ○学校行事やボランティア活動等を主体的に取り組むことが出来ない生徒がいる。 ○多様な意見に真摯に耳を傾け、自分の意見を明確に発表する力が十分でない。	○自分の事だけでなく、クラスや学校全体をより良くするために、自分の力を生かそうとする。 ○各種ボランティア活動や交流事業、学校行事等に主体的に参加する姿が見られる。 ○社会についての広く深い理解力がある。	○学校行事等の取組をとおして自分の役割を自覚させるとともに、他者とのより良い関わり方を身につけさせよう。 ○様々な活動に挑戦できるよう、広報方法を再検討し、生徒会執行部を中心に取組を進める。 ○ボランティア活動への積極的な参加を推進する。	○多くの生徒が学校行事や部活動において他者と目標を共有したり、自分の役割を果たすことができた。 ○決められたことには真面目に取り組むことができるが、集団の課題解決に積極的に行動する姿勢がやや欠けている。 ○ボランティア活動への参加や企画、そして様々な体験事業に参加しようとする生徒が徐々に増えている。	B	○自主LHR等を活用し、他者と協力をして一つのことを達成する機会を増やす。 ○生徒会の活動をより充実させ、また部活動単位でのボランティア活動を奨励する。 ○ボランティア活動に参加した生徒の声を紹介するなど、活動に対する興味関心をより高める工夫をする。
2 学習指導の充実と進路指導の強化	②3年間を見通した教科指導体制の整備と「確かな学力」に繋がる主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。	○各教科の特性に応じて主体的・対話的で深い学びとなるよう指導の工夫を図っているが、学校全体の取組としては十分でない。 ○大学入試センター試験や二次試験の研究と対策を進め、生徒の実態を踏まえつつ学習指導の充実に努めている。同時に、共通テストに向けた研究や対策を図りつつある。	○各教科の授業でICTの活用や授業改革を進め、学校全体で公開授業や研究授業を積極的に行っている。 ○全国模試で校内平均点偏差値が、1・2年生は55を、3年生は50を上回る。	○研究授業月間を年2回設定し、他教科の授業を積極的に参観するとともに、校外等での研修に参加する。 ○生徒の実態や教育課程に対応した授業計画を立てて、3年間を見通した教科指導を実践する。	○ほぼ全教科で研究授業・公開授業を実施できた。タブレット端末を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現を意識した授業が増えた。 ○生徒の実態に応じた教育課程の見直しをおこなった。 ○全国模試は、3年生は目標をほぼ達成できた。1・2年生は少し差があるが健闘している。	B	○他教科の授業も積極的に参観し授業改革に努めるとともに、保護者が授業参観できる機会を模索する。 ○部活動の在り方やスマートフォンの使い方と関連付けながら、生徒の学習時間を確保し、授業・教材や進路指導等を通して、生徒が主体的に学ぼうとする意欲をより喚起するよう努める。
	③将来の夢が語れ、高い志を持って自己の将来像を設計し、実現に向けて主体的に努力する力を育成する。	○計画的な家庭学習が身につけている生徒は約7割であるが、課題等、教員から指示された内容にとどまっている。 ○生徒との面談や「鳥取学」、進路ロングホームルーム(LHR)、各種講演会などの諸活動を通じて、生徒の進路意識が高まりつつある。 ○授業での図書館利用や図書館環境に工夫を施した結果、図書の貸出冊数は前年度より増加した。	○計画的な家庭学習の習慣が身につけている生徒が75%を超えるとともに、生徒が自分なりの学習習慣と学習方法を身につけている。 ○学年それぞれに応じた進路目標を持ち、学習に取り組んでいる。 ○図書館の新規利用者数や一人当たりの貸出冊数が増加する。	○自宅学習時間調査を通して生徒自身に家庭学習のあり方を振り返らせるとともに、取り組むべき内容について具体的に考えさせる。また、生徒との面談などを通して、主体的学習や進路意識向上を促し支援する。 ○自習室の利用促進を生徒に訴える。 ○「進路LHR」や「総合的な学習の時間」を活用した進路プログラム、各学年の「進路だより」などにより、生徒の進路意識の向上を図る。 ○授業及び図書館からの魅力ある情報提供をとおして、読書への動機付けをはかる。	○計画的な家庭学習をしている生徒は70%であるが、自宅学習時間はやや減少傾向にある。課題(宿題)が多く、生徒が対応しきれていないところがある。 ○高い進路目標を掲げ努力する生徒が出てきているが、現状で満足している生徒も多く見られる。 ○3年生を中心に多くの生徒が自習室を利用しているが、利用ルールが守られていないところもある。 ○「鳥取学Ⅰ」では主体的に探究し、「鳥取学Ⅱ」でも様々な視点にたった学びができた。 ○授業のための図書館資料貸出冊数が生徒・教員とも増加し、授業に関する図書館展示も増えた。	C	○適切な課題(宿題)を課すことで自宅学習の習慣を身につけさせるとともに、自分で学習計画を立てる力を身につけさせる。 ○自習室の利用マナーの定着を、継続的に図る必要がある。 ○「鳥取学Ⅰ」及び「鳥取学Ⅱ」で学んだことについて、今後の自分の在り方と結びつけて活かしていき、いかに行動に結びつけるかが課題である。 ○図書館について、教科との連携や授業者からの情報提供により、今後も支援体制をすすめていく。
3 規範意識の向上と健康・安全管理の充実	④規範意識を持ち、健康・安全に関する自己管理のできる生徒の育成。	○スマートフォンの家庭での使用が平日1時間以上の割合60%と使用時間が適切であるとはいえない。 ○自転車マナーについて、市民から指摘を受けることがある。登下校時の自転車による接触事故は増加した。	○スマートフォン等の使い方を含め、家庭における生活習慣(起床、帰宅、学習開始、就寝などの時間等)が確立している。平日使用時間1時間以上の割合を30%以下とする。 ○自転車マナーが向上し、登下校時の事故が減少する。	○スマートフォン等の使用について、ルールやマナーを守るよう、粘り強く啓発する。また生徒会などからも呼び掛けを行う。 ○宅習時間調査・生活習慣アンケート・各種講演会等を効果的に活用する。 ○決められた自転車通学ルートの通行を指導し、登下校時に定期・随時の交通安全指導を行う。	○スマートフォン等の使用について、86%の生徒は適切に使用しているといっているが、保護者の半数近くは適切ではないと感じている。 ○「自転車のルール・マナーを心掛けている」生徒は98%であるのに対し、自転車に対する苦情は昨年を上回った。 ○自転車事故は昨年と比べて半減した。	C	○スマートフォン等の適切な使用方法・使用時間について啓発を続けるとともに、家庭にも協力を依頼する。また、生徒会などからの呼び掛けを行う。 ○自転車のルール・マナーについて、機会あるごとに啓発指導を行う。生徒玄関にあるモニターでの呼びかけや、登下校時の立ち番での指導を行う。
	⑤心身の健康を増進し、いじめや差別を許さない教育を推進する。	○人間関係がうまく作れない生徒や不登校傾向の生徒が少数ではあるが存在している。 ○生活習慣が確立していない生徒が少数存在している。 ○教育相談委員会を定期的に開催し、生徒の実態把握や情報共有を持続的にやっている。	○生徒・教職員が人権感覚を磨き、安心して生活を送ることができる学校である。 ○生徒が自己の生活を自律的に営むことができている。 ○生徒の小さな変化を見逃すことなく、学校として迅速・適切に対応している。	○人権教育の中だけではなく、授業・学級活動・部活動など学校生活の中で生徒どうしが自由に思いを語ることのできる環境をつくる。また、hyper-QUやいじめアンケート等を活用して生徒の状況を的確に把握し、適切な対応を行う。 ○QCカードや生活習慣に関するアンケート結果を活用する。 ○日頃から保護者と担任、学年と保健部の連携をはかり、必要に応じて外部専門機関の協力を得る。	○「安心して生活を送ることができる」生徒が94%であった。差別的な発言を行った生徒がいたが、人権教育の視点でその都度自らを振り返らせた。 ○少数ではあるが不適応・不登校傾向の生徒がおり、学年・保健部等の小委員会をこまめに開き、情報共有や支援を積極的に行った。 ○生徒保健委員会・保健だより・相談室だよりの学校HP掲載等により、情報提供や自律的な生活の自己管理について啓発した。また、教育相談室隣接の相談ルームの利用についての弾力的な運用を始めた。	B	○学校生活全般にわたり人権尊重の観点をもって教育活動にあたる。差別的発言や行為があった場合は、迅速に学年・分掌等で情報共有や指導に当たる。 ○今後も継続して小委員会等を開き、組織としての対応に努める。 ○アンケート集計や還元方法を継続して考案する。 ○生活リズムや生活習慣等の指導(個別・全体)を継続して行う。相談ルームの利用方法を改善する。
4 学校運営の点検と教育環境の整備	⑥地域と連携を再構築し、PTA活動の充実・発展を推進する。	○様々な行事において地域との連携が進んでいる。 ○学校祭・進路講演会・公開人権教育LHR・PTA行事などの行事に保護者が積極的に関わっている。	○中高連携教育や地元町内会との交流がさらに進む。 ○PTA行事に参加する保護者が増加する。	○地域の小中学校の行事に、部活動の一環として生徒や教職員が参加・協力するなど交流を推進する。また、生徒会執行部と近隣地域との交流に一般生徒の参加を推進する。 ○学校と地域・保護者が協力して、様々な側面から生徒の成長をサポートできるように取り組むように努力する。また、学校ホームページを利用するなどPTA活動の広報に努める。	○中高連携・地元町内会との交流は停滞しているが、近隣小学校と教科や部活動を通して交流が進んだ。 ○PTAの各専門部が活発に活動し、生徒の成長を様々な側面からサポートしている。	B	○地元町内会との交流について、生徒会執行部であり方を継続的に検討する。 ○保護者の意見・要望を大切にしながら行事を企画する。
	⑦各種広報紙の定期発行や学校ホームページの活用をさらに発展させて情報発信を充実する。	○各種広報誌を定期的に発行し、学校ホームページの活用も進んでいる。	○各種広報紙や学校ホームページ等を利用して、学校の取組を積極的に伝えていく。	○学校ホームページの更新を組織的に進めるとともに、より有効な活用方法について検討する。また、生徒の個人情報に配慮しつつ、広報紙などで生徒の学校での様子・PTA活動の取組を伝え、保護者のPTA活動に対する意識を高める。 ○メール配信システムを活用する。	○学校ホームページやメール配信システムによって、必要な情報をタイムリーに発信することができた。一方で、その運用が一部の職員任せになっている。 ○PTA文化広報部が活発に活動し、「鳥東高通信」の内容が充実し、PTA行事への参加者も多い。	A	○HP作成委員会等で、ホームページの運用について各分掌・学年の関わり方を明確にした。 ○HPの構成を更に工夫することで、必要な情報を検索しやすくする。 ○今後も継続して、タイムリーな情報発信と内容の充実に努める。

評価基準 A: 十分達成 B: 概ね達成 C: 変化の兆し D: まだ不十分 E: 目標・方策の見直し
【100%】 【80%程度】 【60%程度】 【40%程度】 【30%以下】